

信濃町の埋蔵文化財

仲町遺跡・貫ノ木遺跡

—2000個人住宅地点発掘調査報告書—

2001

信濃町教育委員会

信濃町の埋蔵文化財

仲町遺跡・貫ノ木遺跡

— 2000個人住宅地点発掘調査報告書 —

2001

信濃町教育委員会

例 言

1. 本書は平成12年度に実施した長野県上水内郡信濃町における開発事業に伴う発掘調査、試掘調査の報告書である。
2. 調査は国および県からの補助金交付を受けて信濃町教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆、編集は調査担当者である渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を藤田桂子がおこなった。
4. 本調査の遺物、実測図、写真等の資料はすべて信濃町教育委員会に保管されている。

出土資料の記号番号は次のとおりである。

仲町遺跡 [00NK] 貴ノ木遺跡 [00KN]。

5. 調査体制は次のとおりである。

調査主体者 信濃町教育委員会

事務局 教育長 小林 豊雄

総務教育課長 佐藤謙一郎

総務教育係長 北村 赤一

調査担当者 総務教育係 渡辺 哲也

発掘参加者

(仲町遺跡) 麻田紀子 石川定男 萩合春人 小林健吉 佐藤儀信 菅谷澄子 高田昭夫 高橋義夫 外谷朝生 澤沢政雄 松岡さとみ 松木圭子

(貴ノ木遺跡) 徳永門 外谷朝生 藤田桂子 松岡さとみ 松木圭子 山崎啓一

整理参加者

麻田紀子 佐藤美佐江 佐藤道子 菅谷澄子 藤田桂子 松岡さとみ 松木圭子

6. 陶磁器類に關しては長野県埋蔵文化財センターの市川隆之氏にご教示いただいた。

7. 調査をおこなうにあたり、調査地の土地の所有者である小林健吉氏（仲町遺跡）、畠山経則氏（貴ノ木遺跡）に多大なるご協力をいただいた。記してお礼を申し上げる次第である。

目 次

I 信濃町の環境と遺跡.....	1
1. 自然的環境.....	1
2. 歴史的環境.....	2
II 調査の内容及び成果.....	2
1. 仲町遺跡（2000個入住宅地点）.....	2
2. 貴ノ木遺跡（2000個入住宅地点）.....	8
写真図版.....	14

I 信濃町の環境と遺跡

1. 自然的環境

信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県と県境を接している。町域は東西の方向に概ね3つの地形に分けられる。東部は第三紀鮮新世から第四紀前期更新世の堆積岩を主体とする基盤山地が占め、それらの上を斑尾山起源の安山岩溶岩が覆っている。野尻湖はこの基盤山地の中にあり、およそ7万年前にその原形ができたといわれている。西部には第四紀中・後期更新世の飯縄山、黒姫山の火山地形が占めている。この東西の山地に挟まれた中央部に低地帯があり、主に後期更新世から完新世の湖沼・河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などになっている。

黒姫山東麓を水源とする赤渓川と野尻湖を水源とする池尻川は関川水系に属し、北方へと流下する。一方戸隠村を水源とする鳥居川は千曲川（信濃川）水系に属し、南東方向に流下する。この二つの水系の分水嶺は柏原地区に位置し、その辺りはなだらかな高原状となっている。こうした平坦な地形は内陸部と日本海側とをつなぐルートとして古くから利用されてきたものと考えられる。現在人々が暮らす居住域は、標高700m前後の地域で、気候は日本海側の気候に属し、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的冷涼で避暑地として利用されている。

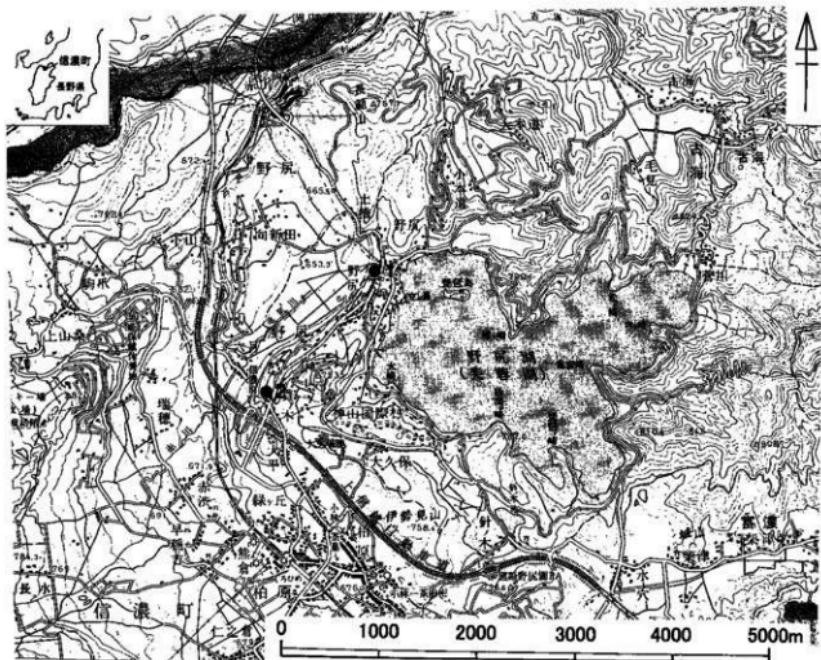


図1 調査地の位置（信濃町役場作成1/50,000地形図を使用）
1. 仲町遺跡 2. 貴ノ木遺跡

2. 歴史的環境

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあるため、古くから人々の往来がさかんであったことが推測できる。江戸時代には北国街道が整備され、加賀前田家の参勤交代や佐渡の金銀の輸送のルートとして使われ、町内では野尻、柏原、古間の3つの宿場が設置され、整備された。また、関川を境として信濃と越後の国境があり、国境という歴史的、地理的な特徴を有している地域でもある。

II 調査の内容及び成果

1. 仲町遺跡（2000個人住宅地点）

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻861
事業主体	個人
原因	住宅建設
調査の種類	発掘調査
調査面積	90m ²
調査期間	5月9日～5月15日
遺跡の時代	旧石器・縄文・弥生・中世・近世

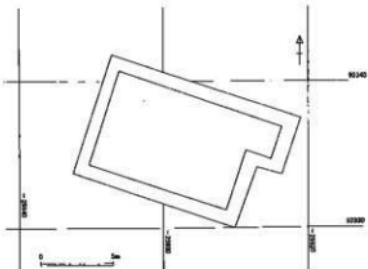


図2 仲町遺跡調査地の座標位置

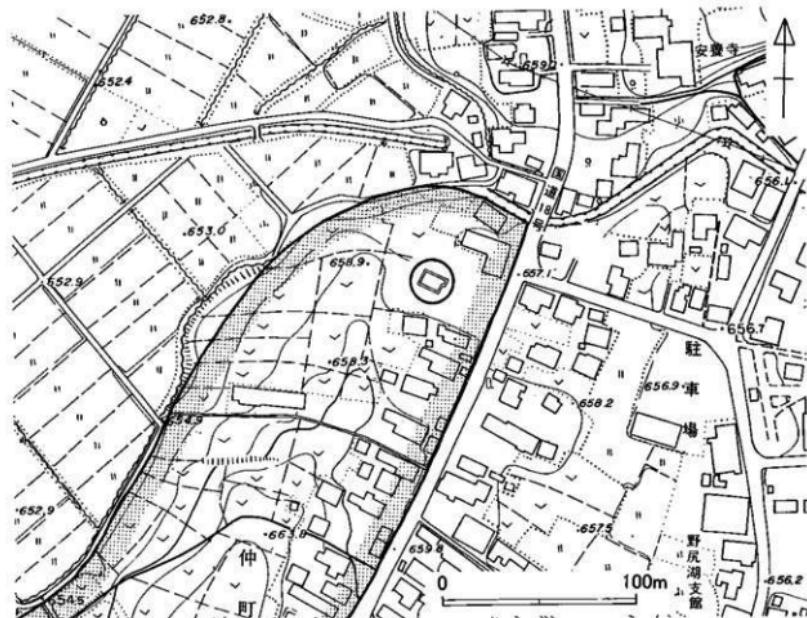


図3 仲町遺跡の範囲と調査地の位置

出土点数 55点

B. 調査に至る経緯

野尻バイパス建設に関連して、その取付道路の県道の拡幅工事が計画され、個人の住宅を移転することになった。移転先はそれまで居住していた家の後方の畠地であった。移転先は仲町遺跡の範囲であり、かつ、北国街道の宿場である野尻宿の中にであること、また、この周辺で過去に発掘調査がおこなわれ、その状況など考え合わせるとこの地点に遺跡が残されている可能性が高いと判断されたため、事業主の協力を得て、発掘調査を実施することとした。

C. 調査の方法

建物の基礎工事のための掘削により遺跡が破壊される可能性のある箇所を調査することにしたため、まずは建物の外周を発掘し、遺構、遺物の出土状況を把握することにした。遺跡が密に分布することが確認された場合には調査範囲をさらに拡張することにした。なお、発掘の深度は工事で掘削を予定している50cmまでとした。掘削は重機を用いずに手掘りのみとし、表土部分をジョレンで除去した後、草かき鎌と移植ゴテを用いて発掘した。

D. 調査日誌抄

5月9日 はれ

初日。発掘範囲を設定し、表土をジョレンで掘り下げる。石鎌等出土。

5月10日 はれ

掘り下げ継続。

5月11日 はれ

掘り下げ終了。写真撮影、平板測量をおこなう。

5月12日 くもりのち雨

写真撮影、平板測量、遺物の取り上げをおこなう。

5月15日 くもり・時雨

壁面図の作成。調査完了。

E. 調査の成果

a. 番号

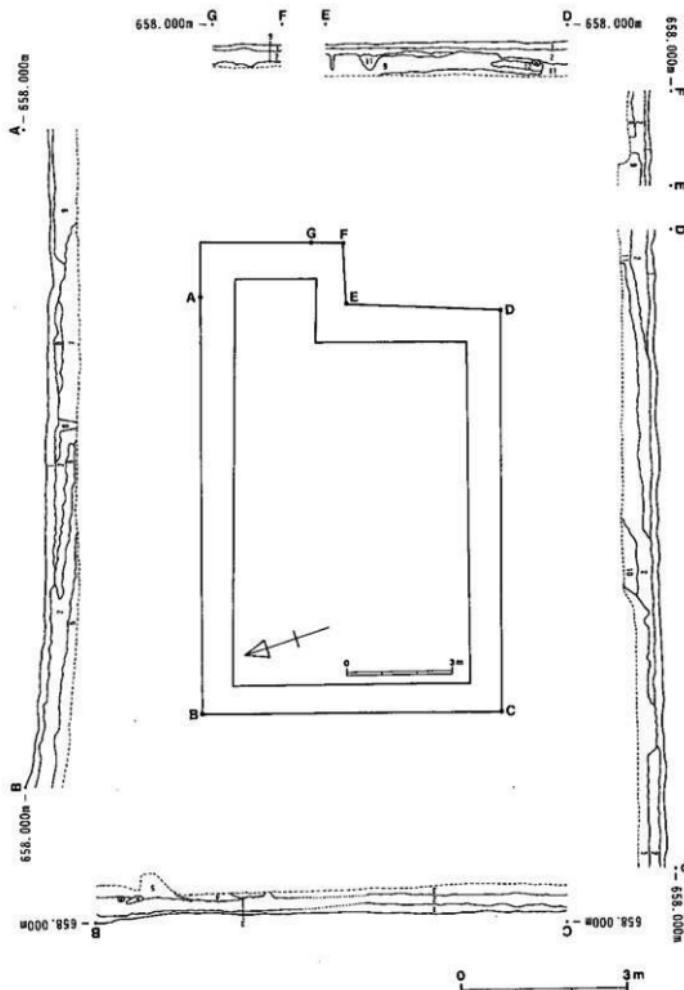
調査地は風成で黒褐色ないし暗褐色の火山灰層（柏原黑色火山灰層）が広く分布する地域で、その下に水成層の砂礫層が分布する。今回の調査区は江戸時代の北国街道野尻宿の宿場内に位置することから、特に近世以降、何度も土地の改変がおこなわれたことが予想される。発掘した範囲で黒褐色土及び暗褐色土に黄色土やシルトなどが所々に混在していることからもそのことがわかる。こうした搅乱を受けた土層中に旧石器時代から近現代までの遺物が含まれていた。

b. 遺構と遺物の分布

遺構はピットを6基検出した。いずれも柱穴の可能性がある。遺物は調査地の北側と南側のコーナーに多く分布している。搅乱された土層中から石器と陶磁器類が混在して出土した。ここではある時期の生活面を面的に捉えることはできなかった。

c. 遺物

遺物は全部で83点出土した。石器14点、陶磁器類60点、古錢1点、その他8点である。その内主なものを図化した。1は黒曜石製の縦長剥片を素材とし、その左側縁の上半部に80度前後の剥離角で二次加工が施されたスクレイパーである。2は無斑品質安山岩質製の剥片で、打面は複剥離面打面で、剥離角は137度である。頭部調整が見られ、また、リップが発達する。3は黒曜石製の剥片で、背面の一部に自然面を残している。摩耗が著しく、ローリングを受けたものと推測できる。4は無斑品質安山岩質製の縦長剥片で、背面に自然面を残している。打



- 1 暗褐色土・耕作土 (粘性なし・しりあり) 黄・黄色土粒を含む
- 2 暗褐色土 1より赤化 (粘性なし・しま少強い) 黄・黄色土粒を含む
- 3 黄褐色スコリア質砂礫 (粘性なし・しま強い) $\vartriangle 5\text{cm}$ の砾を含む
- 4 黑褐色土 (粘性なし・しり弱い)
- 5 黑褐色土 4よりやや赤化 (粘性なし・しりあり) 壤土・黄色土粒を含む
- 6 黄灰色土 シルト質 (粘性あり・しりあり) 暗褐色スコリアを含む
- 7 暗褐色土と黄褐色土の互層 (粘性なし・しりあり) 黄灰色土が暗褐色土に混ざる
- 8 稲育地土 (粘性なし・しり弱い) 黄・黄色土粒を含む
- 9 稲育地土 8より明るい (粘性なし・しり弱い) 黄・黄色土粒・棕褐色スコリアを含む (黄色土の割合が大きい)
- 10 棕褐色土 土被色スコリアと暗褐色土が混ざる (粘性なし・しまあり)
- 11 暗褐色土 (粘性なし・しまあり・硬い) 黄灰色土がまだらに混ざる 塗土・板を含む
- 12 棕褐色土 (粘性なし・しまあり) 塗土・板を多く含む

図4 仲町遺跡調査地の土層

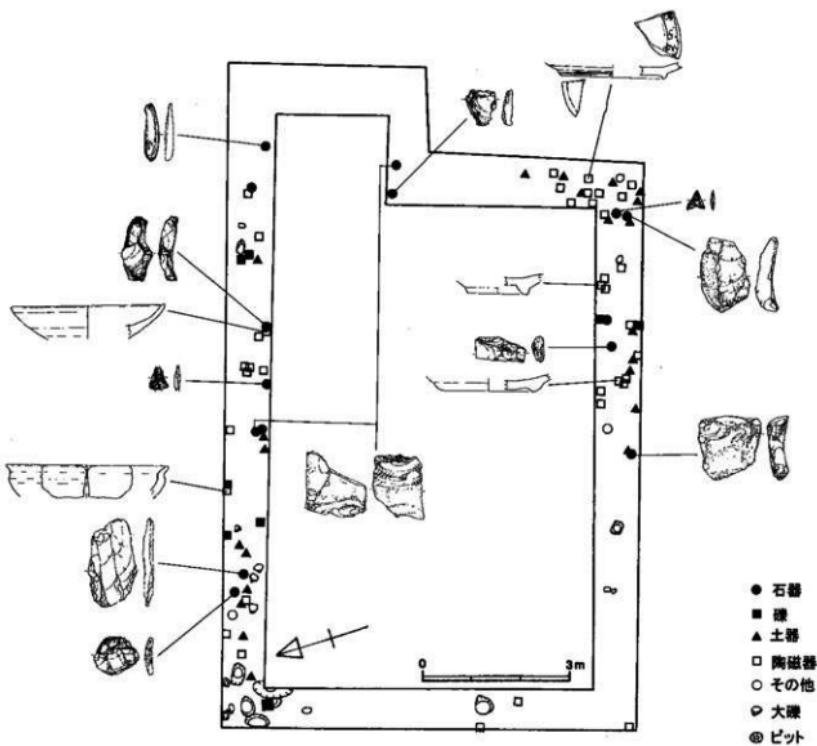


図5 仲町遺跡の構造、遺物の分布

面部は折れていて残存しない。5は無斑晶質安山岩質製の横長剥片で、剥離角は121度である。6は無斑晶質安山岩質製の厚手の剥片で背面に自然面を残している。7は蛇紋岩質の石斧の破損品と思われる。割れや折れ、また風化によって形状が変化したものと思われる。一部に研磨した痕跡があることから、局部磨製石斧の可能性がある。8は珪質岩質の石核である。自然礫を分割し、分割面の剥離面を作業面にして数回の剥離をおこなっている。また、分割時の剥離面を打面として一枚の剥片を剥離している。これらの剥離は石核調整段階の剥離と考えられる。9、10は石礫で、9は頁岩質の円窓無茎縫、10は黒曜石質の有茎縫が欠損したものである。11は研磨された面が残る石器であるが、器種は不明である。1から11の石器の時期についてであるが、縄文時代の石器といえるのは9と10の石礫で、形態から縄文時代後期以降のものと考えられる。2、5、7は旧石器時代の遺物の可能性があるが、そのほかは時期の限定が困難である。

12は瀬戸美濃の大窓の内堀皿で、16世紀後半、13は唐津焼の碗で16世紀末の所産と思われる。14は天目茶碗の口縁部で、産地、時期は不明である。15～17は伊万里焼で、15は皿の底部で伊万里のⅢ期、16はV期、17は碗でV期と思われる。このほかに、小片のため図示できなかったが、珠洲焼の破片や内耳鍋の破片など中世の土器が出土している。

F.まとめ

個人住宅建設に先立ち発掘調査を実施した結果、旧石器時代から近現代に至るまでの遺物を得ることができた。ここは野尻宿の宿場内にあたるため、少なくとも江戸時代に北国街道が整備されて以降は宅地として継続して利用されてきたと推測できる。そのため、整地等による土地の変更が著しく、時期を限定して面をとらえるこ

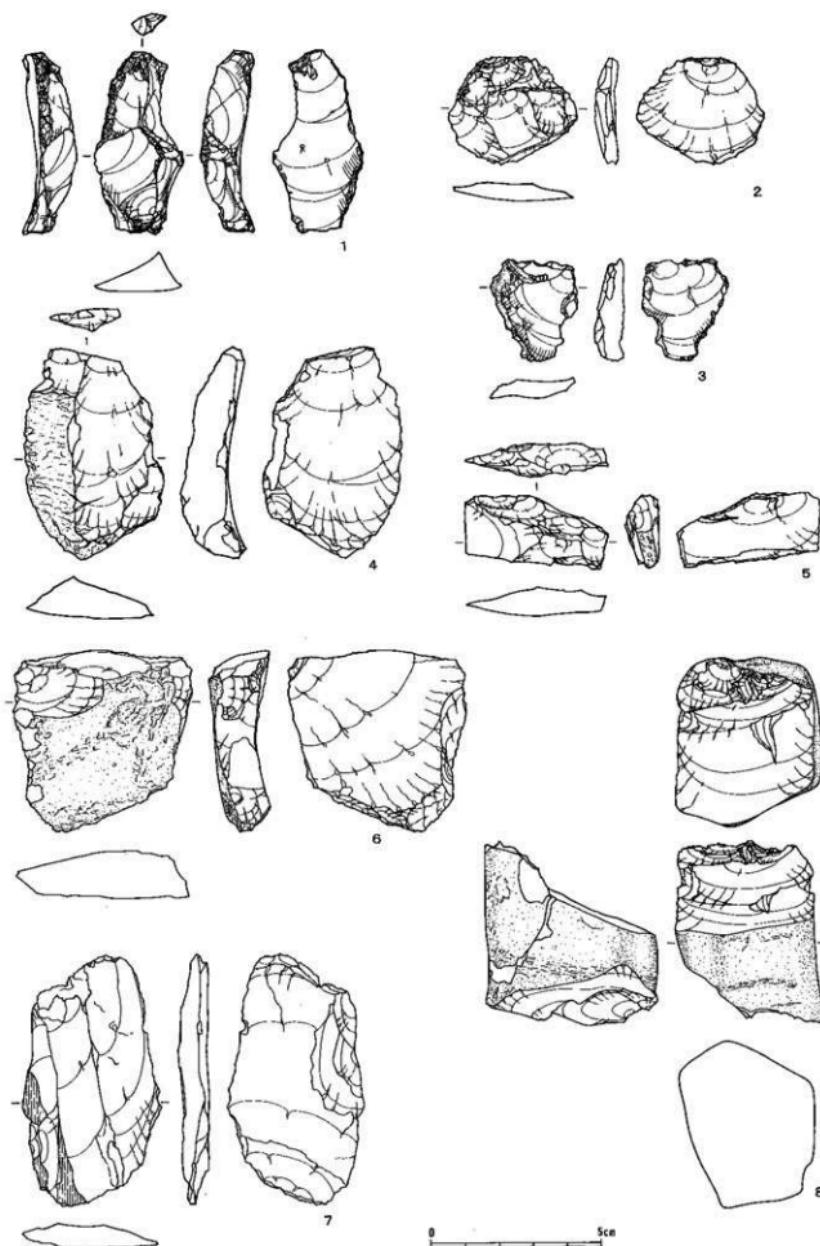


図6 仲町遺跡の主な出土遺物(1)

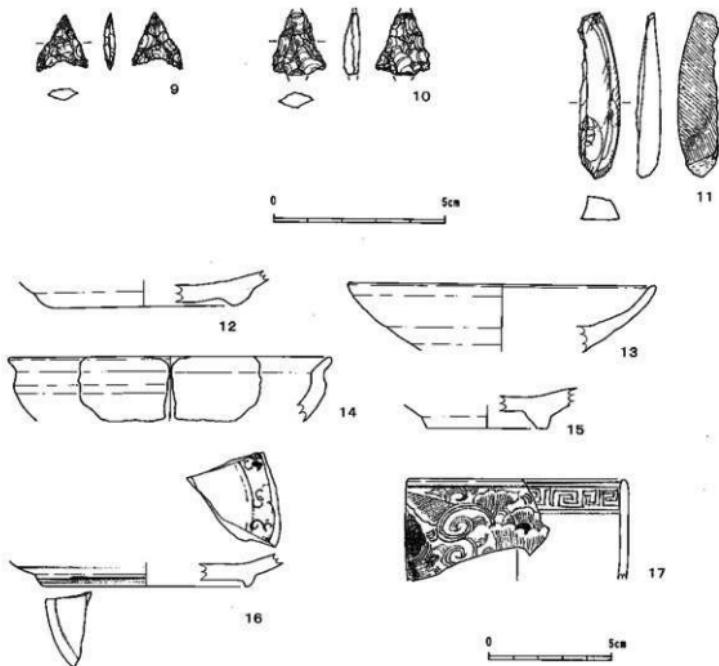


図7 仲町遺跡の主な出土遺物(2)

とができなかった。遺物は改変された地層の中に時期の異なる遺物が混在しており、遺物の分布によっても生活面をとらえることはできなかった。遺物は古くは旧石器時代、縄文時代後期以降のものがあり、中世の珠洲焼や内耳鍋の破片、江戸時代前半の唐津焼や瀬戸美濃大窯の陶器、江戸時代後半の伊万里焼などから、この地が中世から今日に至るまで連続と続く居住地であったことがわかった。

2. 貫ノ木遺跡（2000個個人住宅地点）

A. 概要

所在地 信濃町大字野尻1497

事業主体 個人

原因 駐車場造成

調査の種類 試掘調査

調査面積 20m²

調査期間 9月4日～9月8日

遺跡の時代 縄文、平安

出土点数 55点

B. 調査に至る経緯

国道18号線の拡幅工事が計画され、それにより個人所有の畠地の一部が道路用地となった。畠地は狭くなり、道路との段差が障害となっていることから、畠を道路の高さまで下げて、駐車場を造成したいという土地の所有者からの要望があり、工事業者の好意で道路工事に合わせて造成を実施することになった。国道拡幅にあたりこ



図8 貫ノ木遺跡調査地の座標位置

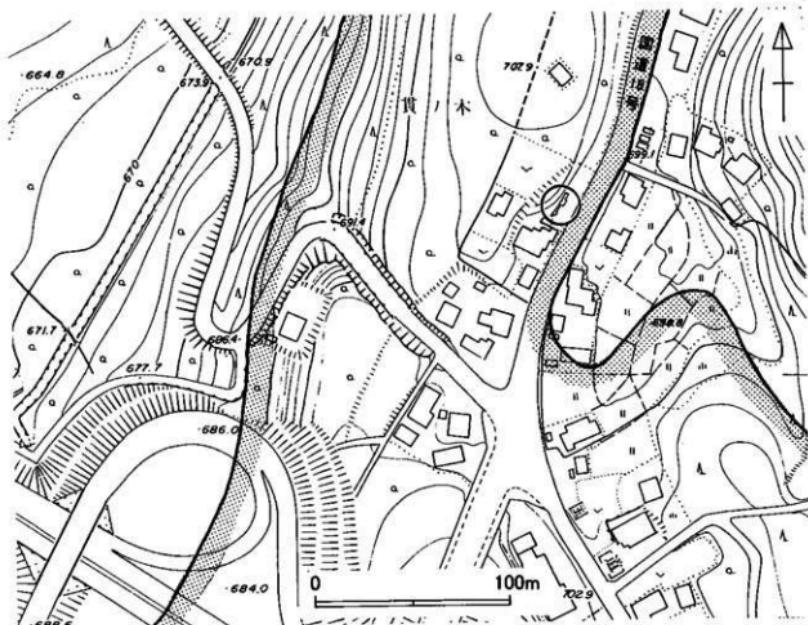


図9 貫ノ木遺跡の範囲と調査地の位置

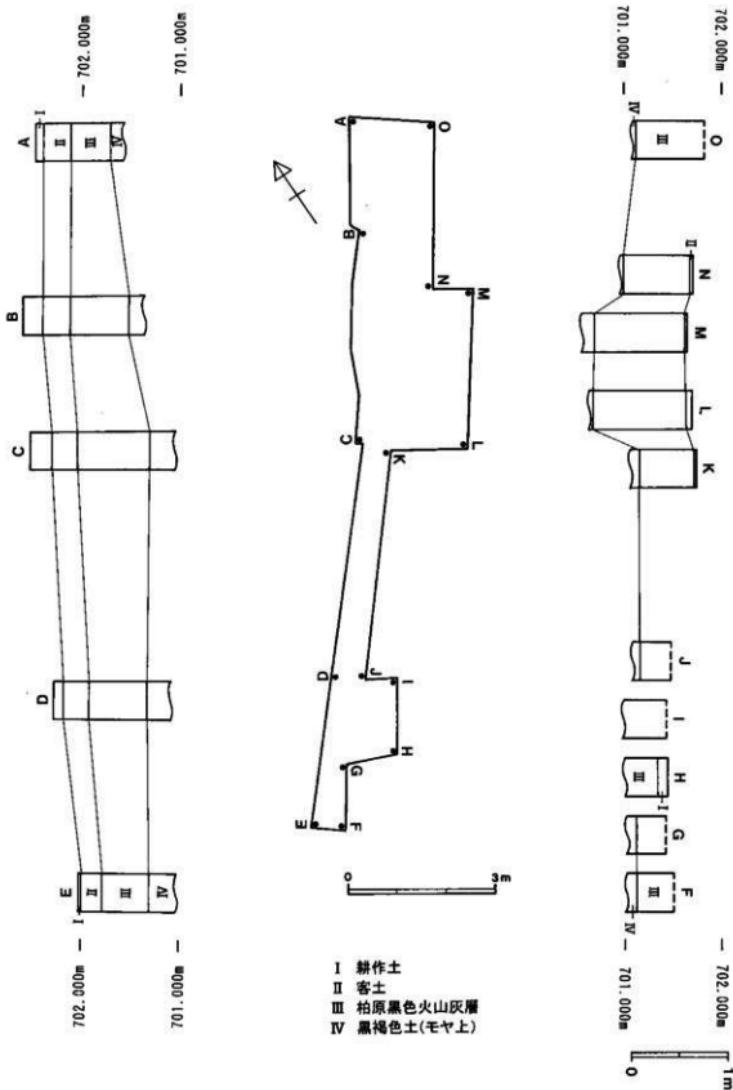


図10 貴ノ木遺跡調査地の土層

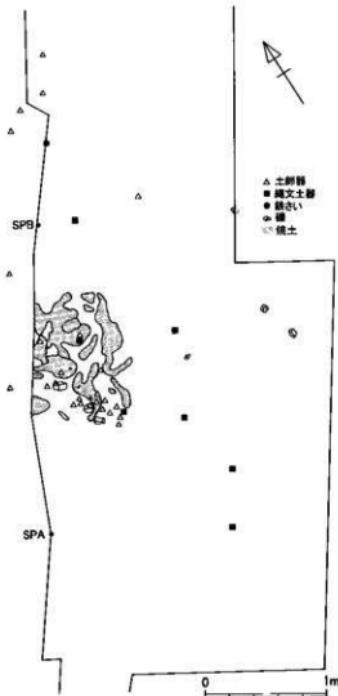


図11 貫ノ木遺跡の焼土の分布

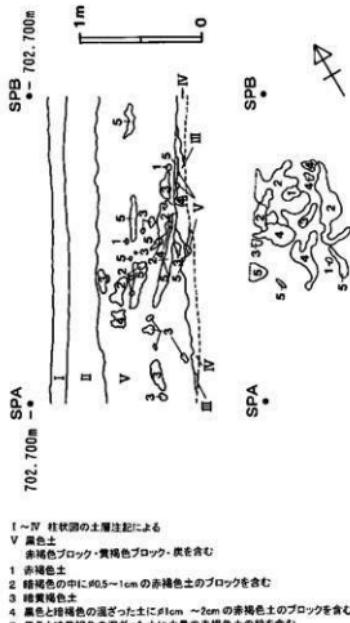


図12 貫ノ木遺跡の焼土の土層断面図

の周辺では（財）長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査が実施されていたことから、工事業者によって埋蔵文化財保護の照会があった。開発予定地は丘陵の斜面部にあたるが、畑は平坦になっていたことから、削平されて遺物の包含層が残っていないことも考えられたため、確認調査を実施することとし、工事業者にバックホーでトレッセを掘削してもらうよう依頼した。この確認調査で土師器が出土したことから、事前に発掘調査が必要という事になった。調査する地層が旧石器時代まで及ぶと造成する期間を確保することができないという状況であったため、山側の畑は残し、国道側で傾斜地のために厚く黒色土が堆積している地点のみを造成することになり、土地の所有者の協力のもと、国造側の20m²を調査することになった。

C. 調査の方法

確認調査により地層の厚さや遺物包含層の深度が把握できていたため、最初にバックホーによって耕作土の除去をおこなった。その後は草かき鎌と移植ゴテによる手掘りで発掘を実施した。

D. 調査日誌抄

9月4日 くもり

初日。午前中、重機により耕作土の除去。午後から確認調査で土器が出土した地点を中心に発掘を始める。

9月5日 くもり

発掘作業継続。焼土検出。土師器、縄文土器出土。

9月6日 はれ

遺物が出土した地点を中心に調査範囲を拡張する。焼土部分を清掃し、写真撮影をおこなう。

9月7日 くもり

調査範囲をさらに拡張する。焼土、遺物の平面図作成。遺物の取り上げをおこなう。

9月8日 くもり

遺物分布図の作成。遺物の取り上げ。壁面図の作成。発掘範囲の測量。完掘状況の写真撮影。撤収。調査完了。

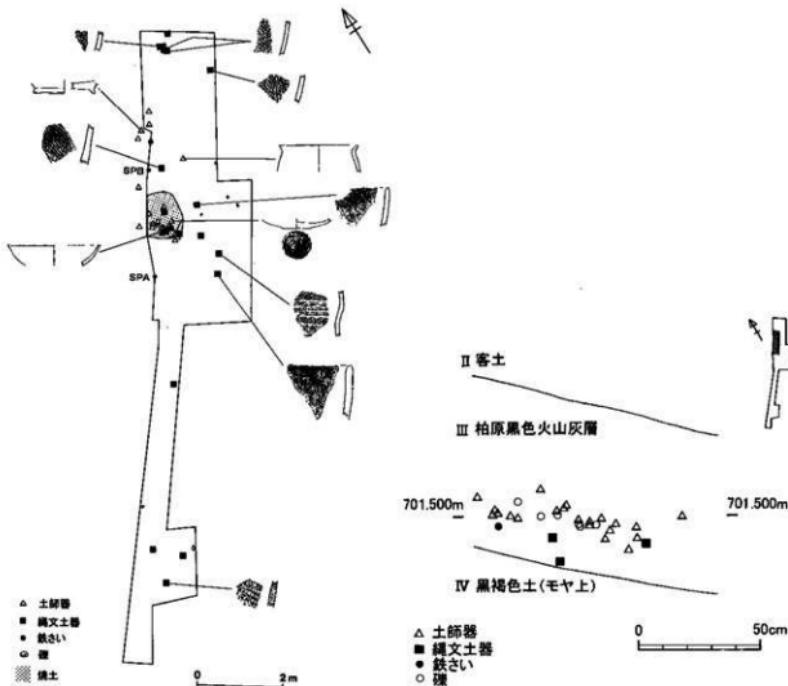


図13 貴ノ木遺跡の遺物の分布

図14 貴ノ木遺跡の遺物の垂直分布

E. 調査の成果

a. 層序

上から耕作土、客土、黒色土（柏原黒色火山灰層）、黒褐色土の順である。調査区北側では20cm前後の厚さで客土がされ、畑がつくられたことがわかる。

b. 遺構と遺物の出土状況

遺構は焼土が検出された。Ⅲ層の柏原黒色火山灰層中に110cm×80cmの範囲に、垂直方向では約80cmの厚さで赤褐色土が混在していた。この周囲には土師器が分布していたことから、平安時代の遺構と考えられ、カマドの跡の可能性が高いと思われるが、堅穴住居跡の痕跡等を検出することはできなかった。遺物の分布では土師器が焼土付近にまとまっているのに対し、縄文土器は調査区全体に散在していた。また、垂直方向でも縄文土器は柏原黒色火山灰層の下部から下底付近に分布していて、土師器の分布範囲よりも下位であることがわかる。

c. 遺物

遺物は全部で55点出土した。内訳は縄文土器が16点、土師器が25点、その他が14点である。その中から縄文土器8点、土師器4点を図示した（図15、表1、2）。1は横位の沈線の間に連続した刺突文が施されていて、この施文部分で屈曲が見られる。縄文時代早期の沈線文系土器と思われる。2、3、4は無文土器で、内外ともにナデが顕著に見られる。4～8はRLの縄文が施文された土器で、4のみに纖維の混入痕が見られた。1～8はいずれも縄文時代早期中葉と位置づけておきたい。

9～12はいずれも土師器で、9は小形の甌の口縁部、10は杯の口縁部、11は杯の底部、12は黒色処理された内黒の甌の底部である。資料数が少ないため時期の限定は難しいが、器種構成等から概ね10世紀ころの所産と考えられる。

F.まとめ

個人の駐車場造成のために事前調査を実施し、縄文時代早期と平安時代の2時期の遺跡を調査した。縄文時代は遺構が確認できず、土器の分布状況を確認した。土器の文様から縄文時代早期後葉のものと判断した。平安時代は焼土を確認したがそれ以外の遺構が確認できなかったことから、この焼土の性格を断定するには至らなかつた。焼土の周辺に土師器がまとめて出土し、土器の様相から10世紀ころのものと判断した。

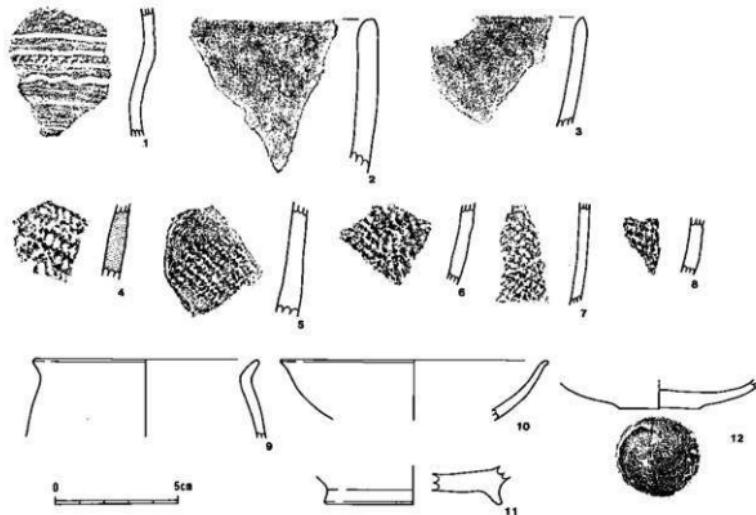


図15 貢ノ木遺跡の主な出土遺物

表1 貢ノ木遺跡の主な出土遺物（縄文土器）

図 番号	遺物番 号	文様	胎土	織維痕	色調		調整	備考
					外面	内面		
1	17	横位沈線間に剥突文	角閃石・長石、 石英、小レキ	なし	明黄褐色	橙色	内ナデ	口縁部
2	50	無文	石英、白色岩 片	なし	黒褐色	にぶい橙色	内ナデ	口縁部
3	44	無文	石英、白色岩 片、小レキ	なし	にぶい橙色	にぶい黄褐色	内ナデ	口縁部
4	51	縄文RL	石英、白色岩 片、小レキ	あり	椎色	橙色	外ナデ	
5	7	縄文RL	角閃石・長石、 石英、小レキ	なし	にぶい黄褐色	黒褐色		
6	40	縄文RL	石英、小レキ	なし	明赤褐色	明赤褐色		
7	20,21	縄文RL	石英、角閃石、 小レキ	なし	明赤褐色	橙色		
8	19	縄文RL	石英、角閃石、 小レキ	なし	明赤褐色	赤褐色	?と同一個体	

表2 貢ノ木遺跡の主な出土遺物（土師器）

図 番号	遺物番 号	種類	器種	色調		備考
				外面	内面	
9	6	土師器	壺	暗赤褐色	黒色	口縁部
10	11	土師器	杯	橙色	橙色	口縁部
11	36	土師器	杯	明赤褐色	にぶい黄褐色	底部
12	4	土師器	内巻碗	橙色	黒色	底部



1. 仲町遺跡の調査風景（遠景）



2. 仲町遺跡の調査風景（近景）



3. 仲町遺跡の遺構、遺物の出土状況



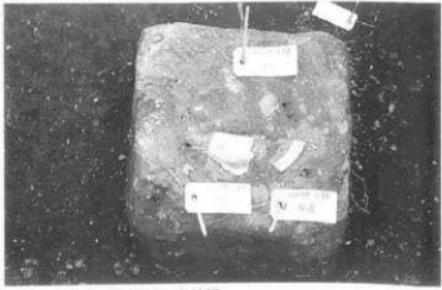
4. 仲町遺跡の遺構検出状況



6. 仲町遺跡の石器出土状況



5. 仲町遺跡の遺物出土状況



7. 仲町遺跡の陶磁器出土状況



1. 貴ノ木遺跡の工事立会状況



2. 貴ノ木遺跡の重機掘削によるトレンチの状況①



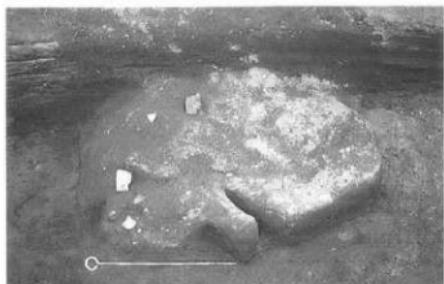
3. 貴ノ木遺跡の重機掘削によるトレンチの状況②



5. 貴ノ木遺跡本調査の表土剥ぎの様子



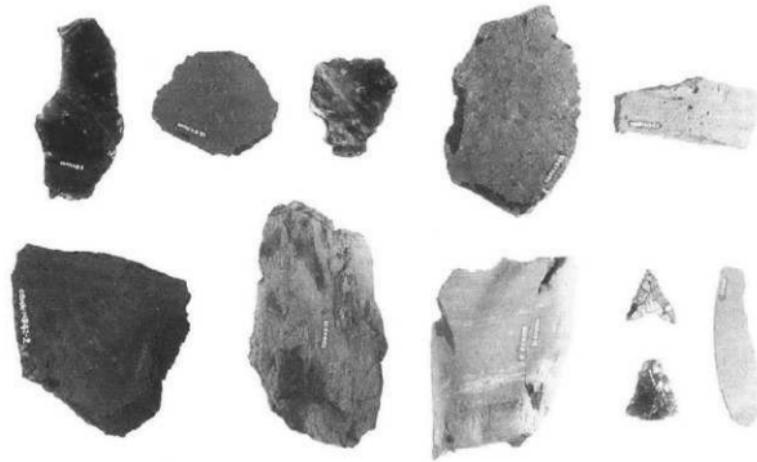
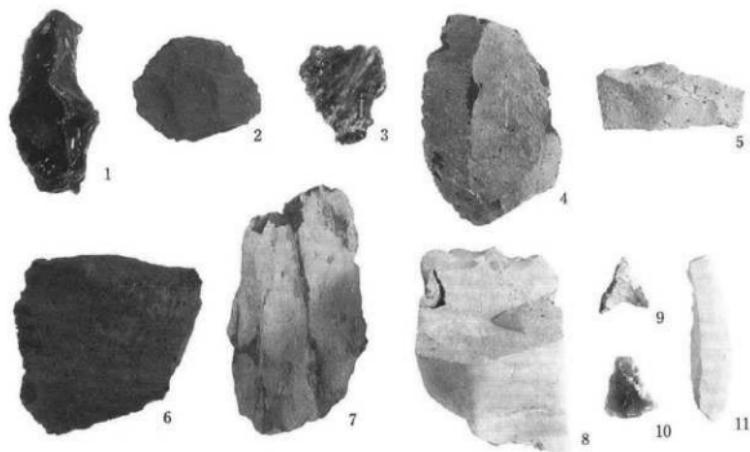
4. 貴ノ木遺跡の工事立会により出土した土器



6. 貴ノ木遺跡の焼土と土器の出土状況①

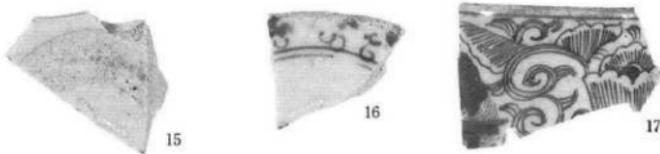


7. 貴ノ木遺跡の焼土と土器の出土状況②

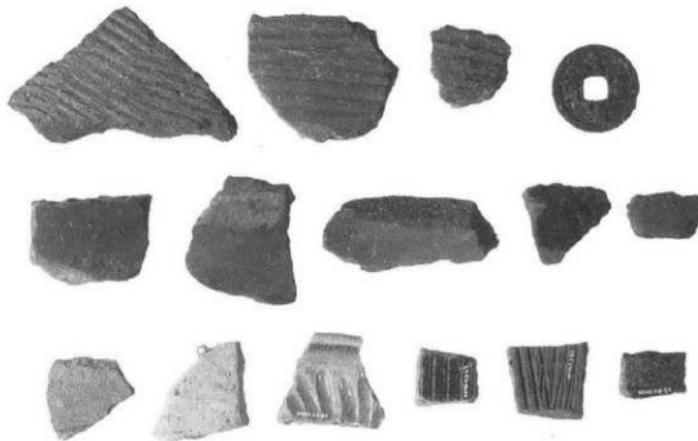


仲町遺跡の遺物①

0 5cm

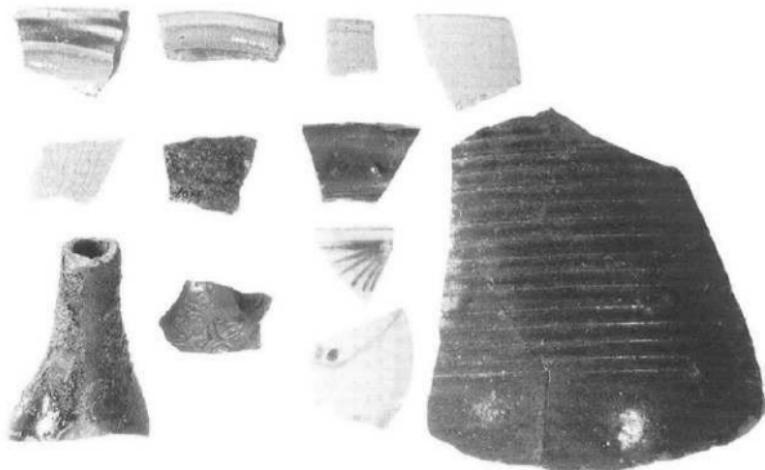


1. 仲町遺跡の遺物②

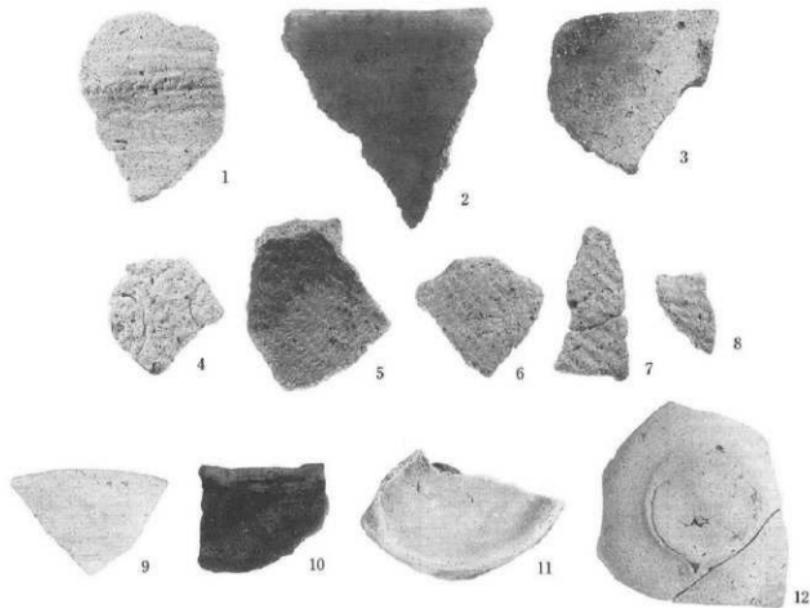


2. 仲町遺跡の遺物③





1. 仲町遺跡の遺物④



2. 貫ノ木遺跡の遺物

0 5cm

報告書抄録

書名	仲町遺跡・貫ノ木遺跡
副書名	2000個人住宅地点発掘調査報告書
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財
シリーズ番号	
編著者名	渡辺哲也
編集機関	信濃町教育委員会
所在地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL: 026-255-5923
発行年月日	2001年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ...	東經 ...	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
仲町	長野県上水内郡信濃町 大字野尻861	205834	40	36度 50分 10秒	138度 12分 22秒	20000509 ~ 20000515	90	個人住宅建設
貫ノ木	長野県上水内郡信濃町 大字野尻1497	205834	47	36度 49263 8秒	138度 11分 37秒	20000904 ~ 20000908	20	個人住宅駐車場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仲町	散布地	旧石器時代 縄文時代 平安時代 中世・近世		石器 陶磁器など 83点	
貫ノ木	散布地	縄文時代 平安時代		縄文土器 土師器など 55点	

仲町遺跡・貫ノ木遺跡

-2000個人住宅地点発掘調査報告書-

発行日 平成13年(2001)3月30日

発行者 信濃町教育委員会

〒389-1305

長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2

TEL 026-255-5923

印刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037

長野県長野市西和田470

TEL 026-243-2105

Archaeological Reports of Shinano-machi

Nakamachi Site
Kan-noki Site

2001

Shinano-machi Board of Education,
Kamiminochi-gun, Nagano, 239-1305 Japan.